

会 議 の 名 称	第2回あま市放課後子ども教室のあり方研究会
開 催 日 時	平成30年12月20日（木）午前10時から12時まで
開 催 場 所	あま市役所甚目寺庁舎 2階 第1会議室
内 容	1 あいさつ 2 協議事項 （1）小学校の教室などの状況について （2）来年度の放課後子ども教室の実施方法について 3 その他
資 料	次第 小学校の教室などの状況について（参考1） 来年度の放課後子ども教室の実施方法について（参考2）
公開・非公開の別	公開
傍 聴 人 の 人 数	1人
出 席 委 員	木全（克）委員、木全（孝）委員、増田委員、井村委員、溝口委員、林委員、辻委員、川原委員、村上委員、宮崎委員、大西委員、立松委員、鎌倉委員
欠 席 委 員	無
事 務 局	松永福祉部長、樋口子育て支援課長、平野主幹、井上係長、川村主任

井村委員長	開会 あいさつ
福祉部長	あいさつ
事務局	資料確認
井村委員長	協議事項 (1) 小学校の教室などの状況について
事務局	各小学校の教室などの状況について、聞き取りの結果を参考1を基に説明。
井村委員長	説明が終わりました。質問、質疑をお受けしたいと思います。
林委員	参考1の資料についての表の見方を再度詳しくお聞かせ願います。
事務局	こちらに関しましては、29年度、30年度の普通教室、特別教室、特活室の部屋数となります。研究会においては申し訳ありません。こちらの表は参考という形になります。部屋の移り変わりを示したものになります。 普通教室というのは、こちらの七宝小学校さんの方を参考にお話しさせていただきますと、普通教室は通常の学級が入っているお部屋になります。そちらがピンクの色のものになります。
林委員	ここで今の図工室とその下の図書室、講堂とここには講堂ないですけど、講堂、運動場と体育館が使えると。
事務局	はい、そうです。 七宝小学校さんの場合は、体育館とは別に講堂という建物が運動場の方にあります。
大西委員	参考1の資料に条件付きとなっていますが、木全校長もお見えになっておりますので、七宝小を参考にお聞かせ願いたいのですが条件付きとはどういうことなのか。

井村委員長	特別な日か何かあった時は、使えませんということでしょうか。
大西委員	ということは、この今のこの4つの教室、図書室、図工室とありますけど、特別な事がない限りは使わせていただける。
木全（孝）委員	そうですね。
宮崎委員	一斉下校ならというのが常に書いてあるような気がする。よく目につくような気がするんですけど。一斉下校の場合しか逆に駄目ということ。
事務局	一斉下校という形になれば、空く教室が増えます。もし仮にこれが一斉下校ではないという形になった場合であれば、空いている教室、逆に小学校の方と細部の打ち合わせをさせていただいて、バラバラな場所となり、この日はここの教室が空く、ここの教室が空くということが出てくるかと思っております。
溝口委員	資料を見させていただきまして、三つほど問題定義したいなと思います。一つ目はですね、どの学校も条件付きで使用可能教室が多いということで、この課題をどう克服していくのか。二つ目はですね、子どもたちに教室、運動場で何を教えるのか。三つ目はですね、スタッフの確保をどうするのか。という三つ。それからこれは問題ではありませんけれども、質問ですが、学校の施設等を利用して実施するのが条件であってのことなのか確認をしたい。それからもう一つは、土曜日の時間はどうなっているのか。この2点ですね。はい、お願いしたいなというふうに思います。
事務局	条件付きでの使用可能教室につきましては、各小学校と打合せをさせていただき、教室だけではなく、天候等の問題もありますが、運動場等も考えておりますので少しでも開催日数の制限がないよう検討してまいります。スタッフにつきましては、溝口委員にもお話しさせていただいたかと思いますが、ご協力いただける団体にお話をさせていただきまして、スタッフとしてお手伝いしていただけたらというように考えております。それプラス、保護者の皆様、小学校のお子さまの保護者の皆様に、お声をかけさせていただきまして、スタッフとして見守りの方をお願いしてまい

	ります。実施する内容につきましてはお願いできる講師により変わってまいりますので、これから考えていくことになってくるかと思います。今現状のあま市では土曜日に放課後子ども教室は実施しておりません。だからといって土曜日は無しなのかということではなく、今後この研究会、実施した各小学校の中で土曜日も実施できるスタッフが揃い、イベントをやったらどうだとか、そういったお話ができ、講師を務めていただける講師、団体の皆様と調整していけたらと考えております。
溝口委員	資料を見させていただいてですね、老人クラブで何人がお手伝いできるのかなというふうに考えた訳ですが、今老人クラブは128クラブ、5,500人の会員がいるわけですが、高齢化が進んでですね、若い会員が加入、非常に困難な状況の中ですね、こういった支援ができるのか、私なりに考えてみましたけれども、一つ考えられるのは、地域の人材を活用したですね、体験教室ぐらいかなというふうには考えております。そういったことをお手伝いできたらなというふうに考えております。宜しく申し上げます。
立松委員	ここに七宝地区の利用可能教室の中には、家庭科室みたいなところが入っていないですけれども。美和の中では、家庭科室が使えるところもあるかと思うんですが。過去の経験のお話になりますが、過去ACTルームということで、美和地区でやらせていただいた時は、だんだんやるのがなくなってくるんですね。同じようなプログラムが回数にもよりますが、そんな中で料理みたいな、おやつ作りみたいなこともやったことがあります。もし使用していない教室の中に家庭科室というのも入るのがあれば、また活動の範囲が広がるのかなというのを思ったのでお聞きしました。
事務局	今現状で、美和地区でも家庭科室を利用させていただいた時もありました。プログラムの料理だとか、そういったことは今は実施しておりません。学校の方からですね、衛生面の問題もございまして、家庭科室の方は変更させていただいている状況ではあります。今は口に入れる物は、大変な問題等がでてきているものですから、そういったものをクリアしていけばですね、そういったところも小学校にお話をさせていただいて出来ていけたら

	なというように考えておりますので宜しくお願いします。
増田委員	前回出ていないので申し訳ないのですが、学校さんに色々とアンケートを取られた結果だと思いますが、まだプログラムが決まってない話で、多分、個人的な意見だと思うんですけど、何もプログラムが決まってなく、聞かれて、使えるのはここだという回答しか現在はないと思うんですけど、今までどこかがやっている知見とかあると思うんですけど、こういったプログラムをやるからこの教室が使えるかどうかというところを聞かれてはいないんですね。
事務局	まずは場所の確保を考えております。逆の聞き方をしております、小学校でどの教室を使えますか。じゃあその教室を使ってどんなプログラムができるのかと調整しております。
増田委員	アンケートを聞かれている側からすると、プログラムを何に使えるか分からないからこういう回答しかないと思うんです。
事務局	事務局の聞き方として、今段階ではそういったことしかお聞きできる段階ではなかったものですから、こういったプログラムをやりたいから七宝小学校のここを貸していただけますかということはまだ聞ける段階ではなく、小学校としてどの教室が空いてますか。どの教室を使わせていただけますかという聞き方のみとなっております。
増田委員	七宝小でいくと、図工室が一斉下校後なら可能だということですが、例えばこの図工室ですっとできるプログラムとかできるはずだと思うんですよ。あと学校側の立場と管理はどうするのかというところと棲み分けというのはそこはもう明確になっているんでしょうか。鍵の管理とかそうですし、施設利用の時の管理というところで、そこは既に明確になって利用する形っていうのは棲み分けができていますか。
事務局	これから細部の方は調整になってくるかと思います。既にご協力をいただいている事業として、児童クラブもございますので、同じようなやり方をお願いできるものなのか、プログラムによっては、細部を色々な問題が出てくる可能性がございますので、こ

	れから詰めていくことになるのかなと思っております。
大西委員	小学校の空きにもよるんですけど、これ今の現状ですと、前回出たんですけども、毎日やるのかどうなのかというところは、今現状事務局はどう思っておられるのか。
事務局	実際の事務局の考えとしては、白紙の状態です。本当この研究会でご意見をいただいた中で決めていこうというように考えております。事務局で毎日、月1回、年1回だということはございません。この研究会でいただいたご意見をそのまま実施していける訳ではありませんが、この研究会のご意見をいただいた中で市として考えていき、決めていきたいというようには考えておりますので、今の段階で事務局の案等がある訳ではございませんので、あくまでこの研究会で話合ったご意見等で揉んでいきたいというように考えております。
宮崎委員	毎日開催なのかどうかということで、私は毎日やった方が例えばスタッフの確保をすごくしやすいんじゃないのかなと逆に思うんですね。週に隔週とか例えば週に飛び日で開催となると募集しても働きたい人がダブルワークになってしまったりとかして、逆に面倒だからもう応募してこないと思うんですよ。 毎日開催することによって、私も働きたいという人もきっと増えると思う。PTAの方でも。時間も短いですし、それはとてもいいかなと思うんです。それに加えて、あり方研究会であま市の保護者さんたちにアンケートを取ってみてはどうかなと思ったんです。例えばどんなものが親御さん側に必要だと思いますとか。例えば費用もどれくらいまでのものだったら納得できますとか。色んな面で私たちの考えていることとやっぱり世の中の人が考えていることと差があると思うし、だいたいの統計をとってその上でみんなでどういう方向性にしたらいいのかということも考えたらいいかかなと思うんです。
井村委員長	今一斉下校が週に1回あるということなら、子どもたちが揃う、足並みが揃うのが一斉下校ですね。今お聞きして、なかなかあとの下校時間は今みたいにばらばらだと最初のスタートでこけちゃうと後の学校がなかなかついてこられないこともあるかなと思いますし、子どもたちがまずまとまって参加できる条件

	ってというのがやっぱり一斉下校の日にちが一番合うんじゃないかなと今思いましたが、どうでしょうかね。なかなかいきなり週3回4回っていても、下校がばらばらだと。
宮崎委員	間口だけ広げておけばいいかなと思うんですけど。別に何やるっていうものは後になって、学校学校で決めていけばいいかなと思うんですね。教室がばらばらだから。
井村委員長	皆さん同じことはできないと思う。
宮崎委員	もちろん。その特色に合わせてやればいいかなというふうに私は思います。それこそほんとに人の確保、スタッフの確保をするっていうことを考えた時にはやっぱり週1とか2ではなく毎日開催の方が子どもも行きやすいし、働く身としてもその方が働きやすい。
井村委員長	魅力があるよね。ここでね、短い時間でも何とか成り立っていくということが分かれば。
宮崎委員	そうと思います。なのでアンケートを取りあえず実施したいなと。
林委員	今の意見もいいとは思いますが、ただ回数を多くするのはもうちょっとスタートして軌道に乗ってからの方がやりやすいのかなと。最初から窓口をあまり広げてしまうと、結局今、教室の空きの教室が決まってきた、事務局の方でやっと空きのスペースが決まって、それに当てはまるプログラムが何がいいかという、これからまだやっていく訳なんですよ。まだ相当結構時間がかかるし、今言われたアンケートも取るとなると、中身としてそれだけのスタッフが集まるかどうか、僕はあまり最初から窓口を開けると、かえって難しいのかな。本当に軌道に乗った時にやっていけばいいかなと思うけど。31年度から事務局、市はやっていきたい、あるいは七宝地区にやっていきたいと思うと、そこがまず起点になるのでやっぱり最初はきちんと反省して、やっぱり反省会もやってどこが問題なのか、今後広めていくためにはどういうことをやらなければいけないのか、もっとスタッフ集めないといけないだとか。

宮崎委員	スタッフの確保が最終的に問題です。
林委員	問題ですよ。同じことばかりやるのか。違うことをやるとすると、その都度その都度打ち合わせが必要となる。毎日やるとするとどうやって、本当にスケジュールをきちんと決まっていかな
宮崎委員	いと。 同じことをやって、同じ人が考えると絶対行き詰ってしまうと思うんですよ。それこそ色んな団体さんがみえるので、あま市の中では。その人たちのそれぞれが考えて、その場に出してくれればそれでいいのかな。イベントの内容としては。
林委員	それは全部決まって。
宮崎委員	だから、それはそれで後で考えれば別に済む話かな。私は逆に
林委員	思
立松委員	って。 今から窓口を僕は広げるのは大変難しいんじゃないかなと思います。 美和の過去の経緯を少し。毎日やったらどうかというお話と、その議論って美和でスタートした時に、やっぱりすごくしたんですね。私自身がまずほんとに宮崎さんみたいに当時毎日預けたかった。預けたいというよりトワイライト、名古屋のほんとにトワイライトスクールのイメージ。お母さんが働いていても、いなくても皆隔てなくそこで集まって、時々企画的なところを地域の人
	が関わって、今日はこういう教室ありますよって希望した子がそこに参加するっていうような。今もトワイライトをやっていると思うんですよ、名古屋は。継続してますよね。ただ私たちが考えた時は結局その地域の団体に協力してもらおうといった時にその団体自体がそんなに余力がなく。なおかつ、やっぱり継続してや
	っていくために、どういうスタイルがいいのかという議論をしたっていうのが一つと、あと児童クラブとの棲み分け。毎日やって児童クラブとの棲み分けが毎日やって毎日企画ものをやるっていうのはとても大変なこと。その棲み分け。見守りだけだったら、結局児童クラブと何ら変わらない。

	だからその棲み分け。親御さんも毎日預けられるんだったら、こっちの方がいいんじゃないかと言って、児童クラブじゃなくてこっちに入れようってなってしまう。だからちゃんと児童クラブの役割、放課後子ども教室の役割。
宮崎委員	それはね、分けた方がいいですよ。
立松委員	毎日やる意味っていうことと、あと体験談から言いますと子どもたち、高学年になると放課後子ども教室の参加率が減ります。今美和もそうだと思うんですけど。自分たちで自立して遊びを見つけた歳になってきて、地域で自由に遊びたい。縛られたくないっていう考え方もあって。当時親だった、まだ子ども、小さかった時は6年生までそういうことやっていいんじゃないってすごく思ったんですね。でも子どもの自主性からしたら、子どもは自立していくんですね。でも高学年になると地域で自分たちで仲間作りをしたりとか、そういう時間もやっぱり子どもにとっては必要だと思うんですね。やっぱり必要としているのは、割と低学年かなと。
宮崎委員	その方が比重は多いと思いますね。
立松委員	体験とか地域との関わりとか、世代間交流であったりっていった時に。後はもう一つは、継続性。長く継続する。それからあと、色んな地域で統一、ある程度仕組みを統一するために、まずモールスタートでやった方が無理がないんじゃないかなっていうことを多分林さんもおっしゃっていて。
林委員	はい。
立松委員	私自身もその議論を前にした時に、月2回からスタートした。それでもしんどくて、今、ほぼ月1になりましたよね。美和月1ですもんね。多分、月2回はすごくその回らない、人が回らないとか、団体の。
宮崎委員	月1回じゃ誰も働こうと思わない。
立松委員	働く人じゃないですよ。基本ボランティアっていう感じ。

川原委員	どういう方が担い手になるかっていうことで、宮崎さんのおっしゃることもすごくよく分かって、私たち世代だとどうせやるなら毎日の方が、毎日の生活の中に組み込むし、でもそれこそちょっとご高齢のボランティアの方にもご協力をいただこうと思うと毎日とはとても大変です。今議論しているのが、まずこの学校の空き状況とかスタッフの確保とか条件とか、実現可能性の部分なんですね。それとは別に本来何のためにやるのかとか子どもたちに何をどういう場を提供したいかっていう理想とか理念の部分を一緒に議論してると思うんです。それで擦り合わせていくしかないと思うんですが、ただやっぱり誰のための何のためのというあり方なのかっていう核の部分をきちんと持っておかないと、これができるからできないからっていうことの擦り合わせも上手くいかなくなってしまうじゃないかなと。
井村委員長	ただ子どもを預かるだけっていう。それだけでは、理念が違いますから。
川原委員	まず理念があって、こういう場を提供しよう。じゃあ、それにかなう条件で場所とか人の確保とかそれをできる範囲でやってみよう。それが少ない日数だったら少ない日数かもしれないし、この内容でやるんだったら担い手は若いお母さんだから、毎日の方がいいんじゃないのか。まず何のためにというところを先に固めた方がひょっとしたらね、理念と擦り合わせれるんじゃないかなと。
大西委員	美和の意見聞いて、今、クラブで預かってみえるんですね毎日。今、これをやろうとした場合にそれと並行してね、何かそういう組み合わせで何かやってったら解決ができるんじゃないのかと私は思うんですけど。ただこれでやった場合に、立松さんが言われたように上級生になると子どもの自立が芽生えてくるんで来ないとかそういうふうにな人が減るよということであればね。そのようなクラブとの併用をね、もう少し何か考えた方がどうかと私は思うんですけどね。ただ、これだけやろうということ、今我々も地域のコーディネーターをやらせていただいて、鎌倉課長もお見えになるんですけどその生涯学習課でボランティアを募ろうという企画も出したんですけども、今実際に七宝でいうと

	他のところもあるんですけど20名弱ぐらいしかボランティアが集まっておりません。だからその辺がもっと理解していただくためにもですね、もう少し何か発信するようなことをやってですね、この子ども教室との併用も、何か考えたりすることも必要ではないかと思っております。今老人クラブの会長さん溝口さんがお見えになるんですけど、老人クラブもボランティアで皆さん交通の方で指導していますけど、それについてもですね、自分は交通指導をしているから関係ないというような頭が皆さんお見えになるんですね。今老人クラブの数が5,500人お見えになるということなんですけど、本当にどれだけ今七宝の中でも、どれだけの人が老人クラブの中で出てきているのか、いないんです。だからそこら辺をアピールするようなものがなければ、これはね、議論が平行線をたどるだけで、ほんとに時間だけ食ってそれで終わりということになると思うんです。もう少し何か他のことで考えていただけんかなということで宜しくお願いします。
井村委員長	すみません、木全（克）委員。
木全（克）副委員長	よろしいでしょうか。ちょっと整理して進めたいと思いますけれども。まずここに書いてありますけれど、子育て支援課がやるということで教育委員会がやらないので学校を借りてます。まずそれが一番で、今日いわゆる1回目で美和と甚目寺が児童クラブと放課後子ども教室があって七宝がないので、七宝をどうしようかというところから始まったということですね。七宝でやるということに関して、今回出していただいたんですけども、こういう教室を使えるということで。先回お配りしたんですけども、児童クラブの場合は有資格者がやることが決まってるんですよ。放課後子ども教室っていうのは見守りということで、子どもが好きであればいいということなんです。絞っていくと、まず対象、いつ、どこで、誰がやっていくと、誰がというのは、全員の子どもが参加できるようにするとやっぱり一斉下校の日が対象日になるだろうということになってきますよね。望ましいのは毎日やった方がいいということなんだけど、立松委員から言われたように刻々と状況が変わってきてるのをやっぱりしっかり捉えないと駄目だということで。じゃあ、誰が担うかというところですけども、基本的にボランティアでいうところが原則だと思うんですけども、状況が変わってきているということで、週1回

井村委員長	よりも毎日やった方が一応ペイはいただけるという両方の考え方もあると思うんですけど、ただずっと今美和で放課後子ども教室をやってきて、経験からいくと返事もできない、ありがとうも言えない、いわゆる委託教育型の基本的な生活態度まで社会に投げかける親がいるというところはきちんと押さえていただいて、何をやるべきかというところですね。空いている部屋で、例えば工作室で2時間、これ意欲が持ってる人だけが来ても何もできないです。2時間のプログラムを1年生から6年生までいてどれだけ興味が続いて、次のプログラムは何をやるのか。ここで休憩を取って集中力をつけて、すごく力があるんですね。だから、集める時に子どもが好きで見守るからということだけじゃなくて、そういう担い手をどうやって育てていくかということも並行して考えていかないと両面これ難しいです。ボランティアで高齢者、空いている人だということと同時に元気な人はやっぱり1日より2日、3日収入が得られる。そういう厳しい世の中だとはっきりしているもんですから、だから今日のところはまず七宝でどういう形が一番いい形でスタートできるかというところに絞ってですね、皆さんの意見をやっぱり進めていかないと時間かけてるだけでは現実に来年から進めていかないので、やるのは簡単だと思います。企画を立ててね。だけどこれが続いてよりいい形に、いい具合になっていくためにどうするかっていうところはまた一から肉付けして進めていけばいいということで、つくづく今思っているのが美和の方もいわゆるスタッフが高齢化と人数不足で困ってますが、子どもたちは毎年元気な子どもがどんどん入ってきて、学校終わってからこの時間にパワーを発揮するんだっていうことでもう精一杯やる気で来ますので、それをやっぱり受け止めるだけの体力と能力が必要だということで、むしろ放課後の児童クラブよりももっと資質を持った人が必要だと私は思っております。だから絞って、今ない七宝を来年どうするかということで限ってね、絞って進めていただいてまた皆さんの意見で進めていったらいいかなというふうに思いますけども。 ありがとうございました。まとめてもらいました。七宝の地区で、皆さんで七宝をまずスタートする。今やっているところはもう一応そのままですけど。ポイントをそこに集中して、皆さんのこれからのまた意見、頭を切り替えていただいて。
-------	--

林委員	教室の方が、ある程度決まってきたんで。結局これからどういうプログラムをやってくのかってなってくると、七宝地区の方で団体なりあるいは個人なり、そういうクラブの方に来年度のいつからとなるのか。
井村委員長	そうですね。来年度ね、大分絞れてはきてますので。来年やりたいっていう。
林委員	どういふことをやってもらえるかということをおね、協力してもらえらる方に。やらないと決まっていかない。そこだけ決まっても、中身が。それによって今先生がおっしゃるように、それこそ体力と能力もいるとなってくるとそれなりの覚悟がいるっていうことなんで、何を協力、最初はそれでいいけど、そのうち段々ね、その人も慣れてくると思うんで、進めていかないとこの会議も進めないかもしれないですね。
立松委員	一つのアイディアとして、保護者のお母様たち、働いてない訳ですから、児童クラブに入れてないということは、基本誰か家で見られる状況であるということですよ、お子さんを。なのでお母様方をやっぱり巻き込む、巻き込んで、川原さんから理念という話もあったと思うんですけど、自分たちの子どもたちにどういふ場を提供したいのかっていうところも含めて何か関わっていただいて、そこのボランティアなのか有償ボランティアなのか、もちろん職員になるのかはまたこれからになると思うんですけどね。そこに入っていて、順番、交代で。
宮崎委員	そうですね。
立松委員	何人かはね。それ以外に地域の団体さんであったりとかの協力も、もちろんあってもいいと思うんですけど。
林委員	お母さんを巻き込まないといけないですね。
宮崎委員	と思いますよ、私もすごく。
増田委員	P T Aの立場からいくと、今のやっぱり P T Aの役員を決める時もすごく難儀しています。

宮崎委員	くじ引きです。
増田委員	ほんとに限られた人しかない中で、実際お母さんたちから言わせると、多分放課後、料理とか作る忙しい時間であったり、預けているわけじゃなくて習い事に行かせているとかあるので、その保護者にと言われると多分保護者の皆さんは多分かなりの反対は。
宮崎委員	それを全員で見るという訳ではなくて、一部が参入するっていうのがあってもいいかなと思います。
増田委員	そのお母さんたちはボランティア。やり方だと思うんですけど、本当に責任が、見守るだけで責任がないのであればいいんですけど、何かあれば当然責任をとった時に、誰が手をあげるのかというところがあると思うんですよ。そこがボランティアの難しいところで、やってあげたい気持ちというのはよくあるんですけど、そこで子どもが怪我した時に、揉め事が発生した時に誰が責任を取るかっていう。
宮崎委員	揉めさせればいいんです。それが勉強なんです。
増田委員	違う。親と揉めるっていう話。子ども同士じゃなく。
宮崎委員	親も勉強ですよ。親もモンスターが多すぎるんです。
増田委員	何かあった時にボランティアのなり手がなくなってくるということを今の世の中そうかなって。
宮崎委員	親も同時に教育っていうか、そういうものをしていって欲しいっていう場なんですよ。
増田委員	分かるんですけど、それを受け入れる親がどれだけいるのかっていうところが非常に。
宮崎委員	掘り下げると、結局親って皆孤独な人が多いっていうか。相談する人もいないから、結局は私が正しいのよみたいな感じでモン

	スターになる人が多いので。相談できる場とか、人の他人の意見が聞ける場にもなると思うし、子どもも子ども同士が揉めて親がいちいち介入するもんだから子どもが解決方法が分からなくて、訳の分からない大人になっていく訳でしょう。だから、怪我も自分持ち。そんな責任がどうこう言っていたら広がらない。
増田委員	そのようなやり方であればちゃんと明記が必要。
宮崎委員	規約で書きましょう。
増田委員	規約というか、何でもそうなんですけど、責任とか学校を借りるので、そういったところが明確に。
宮崎委員	学校は別ですよ、場所を借りているだけなので。学校さんには迷惑はかけない。
増田委員	そういったところも明確にしなきゃいけないと思いますし。
宮崎委員	もちろん。
増田委員	それがあってボランティアさんに何ができますかっていうところもありますし、そこがごめんなさい、前回出てないんで分からないですけど。今まだ子ども教室のあり方も方向性っていうか理念がないって言われたので。
宮崎委員	そうなんですよね。決めた方がいいですね。
増田委員	1回目で本来決まっているべきだと勝手に思っていたので。
宮崎委員	1回目は放課後子ども教室と学童の違いを皆でお勉強してたんです。
増田委員	来年度から始める中で、このタイミングでそれをやっていること事態が僕はおかしいなっていう。
大西委員	皆さん色々しゃべってるんですけど、それはよく分かるんですけど。まず正直言って、やるとしたらですね、ボランティアをね、

	揃えないといけないですよ。ボランティアを募るのに、今私が言ったようにですね。前回、今地域の七宝の方でやっていますが、そのボランティアにしてもですね、あれだけの要するに募集の冊数を入れてですね、皆さんにお願いしたいということで、新聞の中に入れてやったんですけど、20人しかいないんですよ、ほんとに。それで今、七宝さんの校長の木全（孝）さんおみえになりますけど、運動会の時に七宝音頭やろうということで、大西さんお願いしますということで私が民謡クラブに頼んだり何かしてやりましたけど。実際ね、そういうところへ引き受けていただければ結構なものなんですけども、実際にどれだけの人が来てくれるかというのがまず先決問題。やるのはやるでいいんですけども、それをやって来てもらえるのであれば、それじゃあ隔週をやるとか、そういうことをやらんとですね、こんな議論しとったって、何にもならんですよ、ほんとに。皆さん、全部ここにおる人、全員ボランティアやります。
川原委員	理想論かもしれないですけども、ボランティアっていう人が仕事じゃなくて何のためにそこに来てくれるかっていうと、やっぱりその活動に共感するとかそこで自分を役立てようという奉仕の気持ちで来て下さる方だと思うんですね。有償ボランティアっていうのはそれにプラスして最低賃金になるじゃないけれども、時給800円でしたか。
立松委員	900円です。
事務局	現在は900円です。
大西委員	現在のリーダーは。
事務局	1,350円です。
大西委員	サブリーダーが950円ですか。
事務局	940円です。
川原委員	今回の有償ボランティアさんは。

事務局	900円です。
川原委員	だったら、そこそこの収入にはなる。 ある程度集めやすい土台はあるので、プラス、ボランティアって何のためにそこに来るのか、自分がどういう形の奉仕ができるのか、やっぱりそこで何をしに来てください、誰のための活動ですってことがやっぱりはっきり決まってないと時間があるから何かボランティアできますよってということだけでのものではないんですね、やっぱり。そこに賛同して、協力する気持ちの方たちに、ほんとに理想論かもしれないですけど集まっていたくものだと思うんで、ただこう何かが分からないけど協力できる人を探すというのはちょっと違うかな。
井村委員長	なかなか手が挙げられないですね、やっぱり。
辻委員	理念の話があったと思うんですけど、私が不勉強なのかもしれないですが、先回の会議の時に目的みたいなことはきちっと皆さんで話し合われていて、私は今回放課後子ども教室は何のためにっていうことになった時に、子どもたちが地域の方と交流を通して成長したり、地域の方自身も子どもたちと交流することで成長したり、そういったことをするのが放課後子ども教室の理念だと思ってたんですけど、それは違うんですかね。
井村委員長	いえ、そのとおりだと思います。
辻委員	それが理念ということですよ。
川原委員	そういう意見がたくさん出た中で、カチッとしたものが決まらなかったと私は、思ったんです。児童クラブの受け皿なのか、そうじゃ全くないのか。すごくたくさんね、そこでは意見が出たじゃないですか。こうですねってはっきり明文化もされていないので。
辻委員	それをやっぱりまずきちんと皆が分かりやすい言葉、ここにいらっしゃる色んなこと勉強されてる方だけではなくて、地域の働いてみようと関わってみようとそういった方たちにも分かる言葉でまずは放課後子ども教室は誰のためにどんな目的で誰

井村委員長	が主体になってやるよってことをまず決めた方がいいんじゃないかなって思います。 それによってそこでスタッフをそれに合った人の、集めるっていう。そこがないのにただ来て下さいだけでは、漠然として気持ちがないですね、正直。この理念だったら、私も参加したいとか、そういう思われる方に来ていただきたいですね、そこに。ただ漠然と何かやろうかっていうのとはまた私も気持ちは違うかなと思います。そういうのを募集の時にでもこういうことだから人をね、スタッフは集めたいっていう形をとって募った方が、集めて、集まってくれる人たちの気持ちも違うし、またそこで集まった人同士で持ち寄った、お互いの考えがまたちょっと私らの考えとは違う、また何か煮詰まったものがあるのかなって、ほんとにそこに理念を持っていかないと何もないもので集めるというのは、結構無駄な今の時間はね、もったいないなというふうに思います。
辻委員	もう一点だけすみません。スタッフに関してなんですけど、私たちのクラブには今22講座、スポーツをやってる講座がありまして、全ての講座に講師の先生が存在しています。ただ長年やっている講座の中には先生だけではなくて、参加している会員さん自体が新しい方を教えあったりっていうような繋がりが出来ていて、特に参加されている方の半数以上は高齢者の方が多いです。先日13日の日なんですけど、クラブの講師会がありまして、講座の先生にこういう放課後子ども教室の協力について依頼がきていますっていう話をさせていただきまして、スポーツ吹き矢っていう教室なんですけど、筒を吹いて的に当てるようなことで、危険もあるかなってことだったんですが、講師の先生とできる会員さんたち含めて皆で行けばスタッフ、講師丸ごと確保ができるんじゃないかっていう話もありました。ちょっと今小学校の教室などの状況についてという協議事項なので、話せなかったんですけど、クラブとしてはスポーツのクラブなので、年間に12種目ということでスポーツを体験できるようなプログラムができないかなということで考えて、今確保しているんですけど。ボランティアっていうとやっぱり目的だったり、どんなことをするのってことが分からないと動けないですが、今の会員さんたちはスポーツ吹き矢の会員さんたちはスポーツ吹き矢をする、卓球

	の会員さんたちは卓球をするっていうふうに目的がはっきりしているんで、同意はしやすいなっていうふうに考えています。ただその方たちの心を動かすための話し方みたいなものがあるので、今後その辺の調整のところは難しいと思うんですけど。そういったスタッフの集め方もありそうですっていう、クラブからの提案です。
溝口委員	1点お聞きしたいんですけども。今老人クラブで児童の登下校の見守りをやっておりますが、やり方がですね、学校ごと若干違うんですよ。放課後子ども教室もそういう形になる訳ですか。若干学校ごと違うやり方になる訳ですかね。
事務局	今実際、やっているのが美和と甚目寺でやり方が違うという現状がございます。それを統一したいというのが、あま市版というふうに考えているんですが、ただ各小学校、小学校で空いている教室も違えば、使えるグラウンドの大きさも違ったりだとか、使用スペースも違ってくるかと思いますので、全く4校が同じことをやる必要もないかなと、その学校学校にあったそのプログラム、そういったことがやっていけたらなと思います。ただかたや10回あるのにかたや2回しか実施しないという訳にはいきませんので、そういったことはきちんと考えていきながら、子どもたちが、皆さん意見いただけてますけど、地域の方たちの交流、6年生の子が1年生の子に色々何か教えてくれたりする交流だとかそういった次世代の交流をしていただけたらなと考えてます。
井村委員長	他にまだ何かありませんか。
村上委員	すみません、今日遅れて来て申し訳ありませんでした。今私たちの方で高齢化してますので、会員が。ですけれども何年前からでしょうか。ある甚目寺町内の小学校の教頭先生だったんです、その当時は。お知り合いになりまして、女性の会の方でこういう昔遊び、子どものね、遊びのことを皆さんと子どもたちと一緒にやってくれないかなということを依頼を受けました。相談しまして、何年か通ってる、今もまだ続いていると思いますけど。そういうのも児童に対して楽しくて仕方がないということもありまして、だから私たち高齢者ですけれども、会員が。高齢者なら高

	齢者なりの出来る範囲でやれます。これはみんな、私たちは有償じゃありません。みんな無償のボランティアっていうことで、させていただきますので、それぞれの団体でも内容が有料とか無料とかいうのはありますけれども、そういうことをやってたということもすごくいいんですよ、すごく何か子どもさんと私たち高齢者と密着してやりました。やりましたっていうより、続行していると思いますけどね、小学校の方で。
井村委員長	昔は、何世代か同居で、そういうのはおじいちゃん、おばあちゃんから家の中で教えてもらってたけど、今は核家族なので、なかなかそういう接点がないんですよね。だから、すごくそれはまた違う意味でね、見守りの方では子どもたちも興味をやっぱり示してくれるかなと思います。もう家に帰ったらゲームしかないの。そういう本当に伝わってくるものがあると思います。やっぱり毎日っていうそういう特別な週にね、特別な意義があるとそれってすごく子どもなりに興味を持つと私は思うんですけど。
林委員	それなら何も資格なくても協力できるし。正則小学校の時も昔やっていたように、こま回すのも紐が回せない、ましてや引っ張ることできないんで。経験がないから。
村上委員	竹馬でも集中してましたよ。
林委員	理念も大切だけど、その他にもね、そういうことで協力できることがいっぱいあると思うんで、できるだけ協力してもらえる方を募集なり、スタッフも同じだけどそういう人が集まってこない、教室だけ決まってもね。
立松委員	市民活動センターにもね、色んなそういう自分たちの志を持ってね、活動をしてらっしゃる団体さん登録していますので、毎日いけるかっていうとそこはちょっと難しいかもしれないんですけども。コーディネートっていう形で市民活動センターがそこにお繋ぎして意向をお聞きしてっていう役割は果たせると思うんですね。なので、この小学校にね、いつ行けて、どんなプログラムが提供できるのか、それが1時間なのかっていうふうなことはできると思いますけど、全部に平等になるとまたその団体さんにも負担がかかってしまいますので。

宮崎委員	広まりますね。
立松委員	そうですね。最近是小規模多機能自治体っていうね、言葉が全国的にもこう少しずつ進めつつある中で、あま市でもコミュニティー協議会ってね、あのもっと増やしていこうっていう動きがありまして、センターに登録しているコミュニティー推進協議会の中でも活発にやっているところとそうでないところ、でも徐々に活発化して、一つの地域、学校区ぐらいがいいのではないかっていうお話もあるんですけど、学校区の中で、高齢者から子どもまでが自主的に自分たちの街をよくしていこうという仕組み作りみたいな動きが全国でも進んでるんですけども。あま市はまだなんですけど。そういうところも見据えていくと、学校区の中でその地域の人たちが地域の子どもたちを見守ったりとか、交流を図ったりとかいうところに、できるだけ、それが放課後子ども教室のあり方として進んでいくといいのかな。そうした時に、万が一災害があった時に、顔が見える繋がりがあったりとか、そういうところも含めて、お話ができると普段からの交流が、そういう時の何かの手助けになったりとか、見守り隊もそうですね。そういうところで積極的に地域の方に関わっていただく働きかけをするっていうのが、いいのかなと思います。そのため、じゃあ何回やればいいのかっていうのはまたちょっと別の議論にはなると思うんですけど。
井村委員長	借り方ですので、施設も学校のね。
立松委員	そうですね。
井村委員長	そちらの空いてる、それを利用させてもらうっていうことなので、最初に戻りますけど、やっぱり使える日にちで、これでまずやった方が無理はないような気がします。
木全（克）副委員長	はい、また整理していきます。具体的に中身はね、皆さん色々な団体の方がいらっしゃって、お願いできるということで簡単にいくんですけども、要するに今美和でも自分たちのスタッフが研究してやるプログラム、考えてやるプログラムと、外部から講師を呼んで外部から団体を呼んで教えてもらうという、2本立て

	でやってるんですね。だけれどもスタッフとしては、校庭に並んだ子どもたちをきちんと出席をとって連れてくる、道路を渡る時安全なのか、出席カードでチェックをする。そこは外部団体の先生にはやっていただけないのでね。そういう細かい動き、怪我したら直接、今ね、傷に脱脂綿なんか当てたら、バツですのでね、衛生の関係で。色んな形で変わっていきますので、AEDがどこにあってどうやってやるかというところも、知ってるのはスタッフですので、展開は色んな形があるもんだから、その中で七宝を、教室がこれだけ借りられると、毎日は無理だと。絞ってどういうふうに進めていくかということで、ほんとにいっぱい団体、市民活動センター、コミュニティということで利用できるのはいっぱいあると思うんですけど、それをどういうふうにして4月5月、来年4月は無理ですよ。来年度逆算しても、そのやるためにはそこで絞ってもってかないと、時間だけ経っちゃいますので、とりあえずスタートするのは大変危険なんですけど、できる限り話合って最低限でもスタートしていけるという方向にね、もってけたらと思いますけど。
井村委員長	そうです。いつにスタートにするか。それに向けて、それまでには何がいるだとか。
林委員	週に何回やるかだとか。そういうものを大枠決めないと、募集するにしてもね。 決めようがないですよ。
宮崎委員	募集しようがないですよ。
木全（克）副委員長	あと、大枠ですけども、やっぱり目的は地域の子どもたちを地域のいわゆる人材資源、人やもので育てるっていうところをね、大枠の確認でね、皆さんで納得してもらって。
林委員	それはそういうことだと思います。ただスタートだとか月に何回やるだとかどこの学校の今四つありますよね、それを一つにするのか、とりあえずスタートとしてね。そういうことがある程度決めていかないと募集する時にもいっぺんにやるのかということもなってしまうんで。

立松委員	さっきおっしゃってた、その一斉下校を。
井村委員長	それをやっぱり利用するのがね、一番いいと思います。
立松委員	まず、テスト的にスタートして、やりながらということだと学校さんの方も負担がないでしょうし。
井村委員長	あとね、今四つありますけどね、どういうふうにスタートできるのか。
宮崎委員	絶対いきなり四つは。期限もないし。1つっていうのも何かこう。大小がすごい人数が多いところと少ないところと極端なんです、七宝って。なので、1校に絞るのもちょっとどうかなっていう。いずれこうあま市に広めていくにしても。それだとちょっとあまりにモデルにならないから。少ないところと多いところの、モデルにして、スタートしてみてもいいかなっていう。
林委員	事務局も結局両方対応しないといけないので、そこら辺の対応ができればいいかなと思います。多分それも始まる前は、打合せだとかその間で事務局無しでは最初にはできないし、今ある仕事やりながらなおかつプラスアルファで実施することに詰めてやれるかどうか。やれるなら今の二つでもいいし。無理だったら、一つ。とにかく1回、一つやってみて、よければすぐに体制さえ整えば。始められると思うんですが。
宮崎委員	少ないなら少ないなりのでも状況とかバージョンがあったりするし、多いなら多い時の対応がまた全然違うと思うので、2種類、2種類をだしたら、色んな、あま市の色んな学校に対応がしやすいかなという。
大西委員	七宝で言うと、今、木全（孝）先生おみえなんですけど、木全（孝）先生のところと伊福小が一番多いですね、多分。
宮崎委員	伊福小が一番多いんじゃないですか。
大西委員	伊福小は450ぐらい。木全（孝）さんの七宝小は350ぐらいで、秋竹と宝は150人に満たないという生徒数です。だから

事務局	その辺も今言われたように、どこのところを一番にやるかというところを考えてあると思うんですけど、僕が先回正直いってこれをするためにですね、誰かこういうボランティアをやっていただくということで、子育て支援課へ聞いてですね、皆に聞いて回ったんですけども、要するに伊福小の近くのところの話を聞きますとコミュニティでやっているところの管轄は企画政策課なんですね。この我々がやっている地域のコミュニティは生涯学習課なんです。今回やるのが子育て支援課なんです。同じようなことを3つの課がやっている訳です。だから僕はその辺を調整してもらえろという話でですね。伊福に行ったらコミュニティが盛んなんですね。それでそういうところの中で、今の林さんが言われたように交通安全とか老人会がやっという訳です。それでそういうものをやってですね、補助金を貰っているんです。 それを今度、放課後子ども教室を取り入れるとお金が発生するため補助金が少なくなってしまうのではないかと、お金が。今日話されると思うんですけど、放課後子ども教室を手伝うことによって、コミュニティとしての補助金が減るという問題はないのか。そんなことで、ボランティアにしてもですね、難しい問題もあるんです。だから皆さん、七宝でやるということで、やるんですけども。そういう細かい話がね、伝つとらんのですわ。だから、企画へ貰つとるお金が減るんじゃないか。市に対して一生懸命活動しとるのに、そういうことを今度他の課がやるとそれだけのものがお金が引かれるんじゃないかとかね。色々とそういう変な理屈がついてまわつとるもんですから、ちょっとね難しい問題も出てきとるんですね。 参考2の最後のページ、A3の資料を見ていただきますと、今大西委員が言われましたことを記入させていただいているんですけども、先ほど言われましたようにコミュニティは企画政策課、地域ボランティアの募集については生涯学習課、子育て支援課については今お願いしております子ども教室という形で、事業が分かれております。こういった活動は、ほぼ同じ目的でご協力をいただいておりますが、子ども教室は子育て支援課の事業として実施してまいりますので例えば老人クラブの方がお手伝いしていただくということがあった場合でも、先ほど大西委員が言われましたような今までの活動に対しての補助金が子ども教室の謝金分減るだとかそういったことはございません。子ども教室に
-----	---

	ご協力いただきました謝金は子ども教室分となりますので宜しくお願いいたします。ただ同じような事業で分かりづらいということでもありますので、各団体、保護者の皆様には保険等の問題も出てまいりますので、きちんと内容説明をさせていただき、子ども教室のスタッフとして登録をしていただきたいと考えております。
大西委員	ということは両方で、生涯学習課の方のボランティアと子ども教室、子育て支援課の方と両方登録しないといけないということか。
事務局	地域ボランティアの活動もございますし、子ども教室の活動もございますので、きちんと登録を2つしていただいて、来れる時にお手伝いを願えればなというように思っております。
大西委員	今、事務局が言われたんですけど、今実施している子育て支援課の方は1, 350円出るんですけども、生涯学習課の方は保険だけはかけますよ。ただ時間制は出しませんよということなんです。そこら辺がね、ギャップがあるもんですから、そりゃあお金が出る方がいいということで、言われる人が多いと思うんです。そのボランティアに対して話を持っていくのも、ここは出るのに、ここは出ない。やるならお金がつく方がいいと誰でもそう思うんですよね。だからもうそういう人だったら地域ボランティアを辞めてもらえばいいですけども。そういうような考えを皆さん持たれると思うんですよね。だからね、我々もほんとに今色々やらせていただいて、これ昼から私また会議があるから行くんですけど、そういうことがね、いっぱい矛盾しとることが今、市の方で出てるもんですから。これは何とかしないといけないなと思っ てはおるんですけども。
宮崎委員	そっちの方は、助成金が出ないのですか。
大西委員	出ません。
村上委員	今、色々ボランティアで謝礼が出るとか出ないとか言われてますけれども、私たち女性の会は生涯学習の方に所属しておりま

	して、もうそうやって昔からね、お金を謝礼をいただくっていうことがほんとにないんです。もうほんとに声がかかればっていうことがありますので、あまりちょっとお金のことにに関してね、生涯の方がいいと言われてもね、私たちは快く承諾している方の方ですので、あんまりそこは今聞いてて、何か難しいことをお話になってるなというふうに感じちゃいますけど、その点は私たちもほんとに謝礼なしでも、お手伝いができるっていう考えの方が強いんで、申し訳ないんですけど、一言だけ言わせてください。
木全（克）副委員長	それでは、私専門がボランティア教育ということで日福で長く授業をやってきましたけども、色んな状況、人手の確保、長期的にみる、色んなことがあるんですけど、やっぱり原則は無償ということで。東京オリンピックのボランティアも、全部どれだけ自分金を出してやるかっていうみていただくと、貰えるのはほとんどTシャツ1枚ぐらいできてますので、やっぱり原則はやっぱり自ら大変だっていう気持ちで動くっていうのがボランティアの原則じゃないかなというところはやっぱり。今、いっぱい県のボランティア教育にも携わっているんですけど。災害とか何かで助けに行くっていう人は多いんですけど、こういう形で人を支援するボランティアっていうのは非常に少ないんですよ。福祉もそうですけれども。今、大西さんが言われたように、もう1個は福祉のボランティア協議会とかいうのもあって、保険だけでやります、登録しますっていうことで、いっぱい登録して、じゃあどこでどうなっていくかっていうところで、行政もちょっと集約するとね、効率的になるかなっていうのは、一般の市民がいっぱいね、同じようなボランティア要請を社会教育課がやって、生涯学習課がやって、社会福祉協議会がやって、高齢福祉課がやって、やっぱり一つの課題じゃないかなというふうに思いますが。やっぱり私も倒れそうなんですけど、ボランティアが好きなもんですから、ほんとに毎日ボランティアで家庭崩壊を起こしてますが、ボランティアをやってます。
林委員	今の募集要項の中身を1回決めたらどうですか。いつから始まって、今言われる2校、大きいところと小さいところと。
井村委員長	だいたい、いつ頃が目安ですか。

事務局	研究会の第3回目をですね、今年度あと1度開く予定でいるんですが、子ども教室を実施するためには、当然予算というものがになってまいります。その中で、今問題になっております、何校やるのか、何回やるのかということ。また人件費、スタッフの有償ボランティアという形になれば賃金が発生してくるという形になりますので、何校の実施が可能で何回実施できるかによって賃金等の予算も変わってまいります。そのため、現状ではまだ七宝地区の予算を積算できないため、第3回目の研究会を予定しております3月には、どのくらいの予算が必要になるのか目途がつき、4月上旬には予算の積算が完了できると考えております。当然、予算の確保には議会の承認が必要となってまいりますので、6月議会にて承認をいただき、できましたら夏休み明けの9月からの実施に向け進めていけるように考えております。
井村委員長	もう一つ、その七宝の四つの小学校ですと、どこの小学校がどうでしょうか。今言ったみたいに四つは、ちょっと。スタッフの集まり方もありますから。どこまで絞りますか。
事務局	今4校のうち大きい小学校と小さい小学校でやったらどうだという話もございましたので、スタッフの確保、プログラムの問題がございますので、ここですぐに回答はできませんが、利用する子供の安全面も考え、まずは2校に絞らせていただくことを検討してまいります。先ほど、まずは一斉下校からではという意見もございましたが、物づくりなど、時間を合わせるプログラムなどは一斉下校と考え、一斉下校でない時には、校庭や体育館などのボール遊び等を実施していけるのではないかと考えられますので、実施する小学校と同様、スタッフの問題を解決していきながら実施回数を次回お示しし、3回目の研究会でご意見をいただけるよう進めてまいります。講師、スタッフのお願いにつきましては、辻委員から年間に12種目の講座をお願いできる可能性があることのご意見もいただきましたので、地元の老人クラブの皆様、地元の文化協会の皆様、各団体に具体的にどのくらいのお手伝いをいただけるかを調整してまいります。
木全（孝）委員	すみません。蛇足なんですけど、実は今、地域の子は地域で育てるというそういう理念を先ほど言われて、それで放課後子ども教室がまさにそういう理念のもとで行われているってということ

	をどうやって見える化していくのか、その説明会とか色んな発信があると思いますが、その辺をしっかりとやっていかないといけないと思ってます。なぜかという、ほんとに失礼な話なんですけど、見守り隊の方、本校でやっていただいておりますが、保護者の方の中で、結構あるみたいですが、途中まで見守ってきていただいたにも関わらず、習い事があるからということで、黙って子どもを引き取って、車に乗せて行ってしまう。そのことを、見守りの方はどういうことだということで、もちろん学校にも相談がありましたので、先ほどから聞いていると、スタッフがいて、講師、外部講師かもしれません。子どもたちに色んな遊びを教えたりする、果たして地域の子が地域の子を、人が地域の子を育てるということにすぐ見えるかという。やってもらっているだけっていう。その辺りがどういうふうに伝えるのかなっていうのが常々学校におりまして、大抵学校の方でそういうこと苦情って言い方は悪いんですが、言われますので。保護者の方には、常々言っているんですが、なかなかそれがね、行きわたらない。だから理念のもとでと先ほど言われておりましたが、どうやって見える化していくか大変だになってことと。あと1点、一斉下校というのはおそらく月曜日だけになるんじゃないかなと。木曜については、平成で言うと、平成32年度から英語教育が増えるもんですから、恐らくその日6時間授業になるんじゃないかなっていうことがあります。
事務局	それは32年度から。
木全（孝）委員	32年度からです。 その移行期間で、やられる学校もあるかもしれない。あと1個、七宝はどうも吊り天井工事で伊福と、秋竹は8月から12月までは体育館が使えなくなる。他の教室使えるならいいかも分かりませんが。体育館はそうみたいです。
大西委員	それで、今の見守り隊ですが、遠島、宝小学校の見守り隊は並んでおるんですけど、秋竹はいない。ボランティアやるにしても、もう少しほんとにきちっとこう頭でっかちにならないようにして欲しいなと私は思っております。
増田委員	例えば今、僕は伊福なんですけど。伊福だと先ほどあった伊福

木全（克）副委員長	のコミュニティっていうのが活発でその中に色んな部会があるんですけど、そういったものを取り込んでいこうとしても、学校地区で考えると、伊福だけが活発で他の下之森とかもあるんですけど、活発でないコミュニティがあるんですけど。そういったところの地域で考えるっていうことになれば、どこの地区のコミュニティも参加できるような、取り込んでいって、例えば色んな老人クラブの人を取り込んでいくのが一番早いのかなと個人的には思ってます。来年度早々に立ち上げてやっていくのであれば、今既に出来上がっている組織を活用して、その人たちの知恵と人材を活用していただいて、何かできることをするところもその今の理念で地域で育てるという概念であれば、地域コミュニティというものを活発に活用していくのはいいのかなと。その中に例えばPTAの保護者が協力できることも当然あると思うんですよ。ただPTAが主になると嫌がる人がいますが、主が地域でそれに参画するという形であれば多分協力できる人っていうのは、OBの方も含めているはずなので、それを登録とかってなるとまたハードルが上がるので、地域のボランティアっていう狭い中での協力ということであれば参加してくれる人も増えてくるのかなと、これはあくまで個人的な意見ですけど。なので、その子ども教室の組織、変な言い方ですけど体制として、どれが理想形なのかっていうところも大事なのかなと。それが見えてくると先ほどの学校の見える化っていう理念が見えてきたり、こういう理想はこうなんだよというところが見えてないと、なかなかボランティアを引っ張ろうとしても気持ち的に持ってこれないのかなというところもあるので、今の組織を活用して地域のコミュニティっていうのをほとんど引っ張って、そういったところでも広がっていくことにも繋がっていくと思うんで、やるならそういったところの自治会も含めて、会長さんのご協力をいただいてやった方がその短期間で話がまとまっていくのかなと。その僕伊福におるので、伊福であれば色々と協力ができますし、やっていただければ別にいいのかなと思いますけど。 今校長先生からお話をいただいたんで、学校の状況も変わってくるということで、美和と甚目寺で一応モデルはあるんですけど、スタンダードはないので、七宝地区のスタンダードを今言われた増田委員が言われたようなところも含めて、事務局で案を作っていて3回目に提示していただいて、またやっていくっ
------------------	---

	ていうことで。今おっしゃったように、早くて夏休み明けくらいがスタートというところに向けて、事務局に大変かと思えますけれども、お願いしたらというふうに思いますけどいかがでしょう。
全委員	お願いします。
井村委員長	あの、もうひとついいですか。放課後子ども教室をお母さんたちはどれだけ理解をされていますか。要は保護者の方は、この教室が出来ることを各学校のお母さんたちがどこまで浸透していますかね。
宮崎委員	それで、さっき一番最初に私がアンケートを取りたいって言ったのが、それもあって。理解をしていって。
井村委員長	まず、お母さんたちが。
宮崎委員	そう、そっからです。
井村委員長	その教室に対して、児童クラブとね、違いますよってことは今ここでも皆さんたちもこの間少し認識されましたけど、実際お母さんたちは、今度できる放課後子ども教室の事をどれだけ認識しているのは、そういうのは浸透はもうされているんでしょうか。
宮崎委員	いや。
林委員	まだ、これからだね。
宮崎委員	興味のある人は分かっていると思うけど。大半の人は、もう勝手にしてっていう感じの状態だと思うので。やっぱり根付かせた方がいいかなって。 それで、その、市場調査じゃないけど、どんだけ分かっているのかなっていう度合を知りたいっていうのもある。
井村委員長	理解をしていただきたいですね。まずお母さんたちを、やっぱり重視しないと。 いいものを作っても、お母さんたちの理解があまりされないと

	一番お母さんたちが一番ネックの根本に。
宮崎委員	巻き込んででも、ずっとこうコンスタントに、チラシじゃないけど、周知できる物を学校に入れるとか、こう認識づける活動もしつつ、その9月に持っていけたらいいかなと。
井村委員長	同時進行でやらないと。
宮崎委員	また入ってるとか言って。そこでP T Aのそれこそ誰が参加する、される方みえませんか、例えば自分の身内でおじいちゃん、おばあちゃんでもこういうものに興味のある人はいませんかということも添えて、学校配布なりしてくれると認識も高まるし、人員募集にも繋がるんじゃないかなとは思うんですけど。
井村委員長	そうです。さっきの理念ですけど。ほんとにそういうことでやる、教室ですって。
宮崎委員	基が欲しいです。
井村委員長	そうです。それをまず保護者の方たちには浸透をちゃんとしていただきたいですね。
宮崎委員	はい。基が欲しいです。例えば、さっきのまずはとりあえず一斉下校から、ゆくゆくこういう毎日になって頑張りたいですけど、まずはできるところからとか、そういうことも踏まえて例えば、ボランティアの話もそうだし、ボランティア1個とったって、有償なのか無償なのか、無償で多分そこまで人を集めようと思うと、この私たち世代は多分無理がある。子育てしてて、お金もないので、そこでやっぱり働きたいっていうのがあるから、働きながら自分の子どもがみれるんだったら一石二鳥って思う人が多分多数なので。
井村委員長	この理念をお母さんたちには分かっていただいて、そこで子育てしながら、時間が一緒にだったらとか言われるお母さんもみえるかもしれないし。
宮崎委員	そうですね。理念、やっぱりそこであま市の子どもたちはその

	コミュニティを強める今あまりそういうものないもんですから。
井村委員長	ないです。
宮崎委員	お祭りとかあれば別だけど。そういうものもないので、学校という場を借りて。
井村委員長	どんどん、巻き込んで。どんどん情報だけは流してあげて。
宮崎委員	コミュニケーション能力をね、強めていってもらえればいいかなと思いますので。
井村委員長	そうですね。それに乗ってくれたら、ほんとにいいものができるんじゃないですかね。
林委員	できれば今の話、2校を早急に決めていただいて、その今の、アンケートの中にその理念だとか入れて、あるいはスタッフの方で募集を是非協力してもらえるかどうか、多少これだけしか払えないけど、こういった形でもスタッフとしてやってもらえるかどうかということもアンケートの中に入れていけば、どれだけ協力してもらえるかというのもある程度つかめるかもしれない。
宮崎委員	アンケートと認知度を高めるために、絶えずこう毎月こう配っても、結局しれてるじゃないですか。9月。
林委員	学校からきちんとやってもらった方がいい。その辺は。
宮崎委員	学校からの方が配布も皆に届くと思うし。
大西委員	木全校長、これ、校長会か何かで皆さん知ってみえるのか。
木全（孝）委員	放課後子ども教室の事までは。
事務局	子ども教室の事はですね、この12校を回らせていただいた時に、具体的にいつから実施するという話は全くしてございません。実施したい場合に、どのような教室がありますかということで、各学校との調整になっております。子ども教室の周知なんで

	すけど、アンケートという話も出たんですが、どこの小学校で、どのような内容の子ども教室を実施していけるのかが決まっていけば周知方法を考え周知していけるかと思います。アンケートについては、実施する前にアンケートを実施いたしますと、アンケート内容にもよりますが、質問内容として、何回実施したいのか、費用などが主な質問内容となってくるかと思います。これは予想される回答ではありますが、実施回数、費用などは、回数が多く費用面も少ない回答が多いかと思うので、実施後に利用者の保護者の方、見学に見える保護者の方、ご協力いただけるスタッフ、講師等の方々に実施している現状でのやり方についてのアンケートを実施し反省点、改善点の意見をいただければいいかなと思います。
林委員	反省点、問題点を把握するためには、実施中にアンケートを取る形の方が具体的な意見をいただける。
宮崎委員	金額は抜きにして。放課後子ども教室自体のやり方ができてきた場合に、ある程度内容は決めて、土台を決めたとして、利用しますかっていう、ほんとに利用するそのパーセントを出すっていうのは。
事務局	今宮崎委員言われますように、パーセント出すには形が決まってからではないとパーセントは取れないと思うんです。そういったことであれば実施する小学校、実施回数、実施内容が決まり、周知を兼ねたアンケートも検討してまいりますので、またこの研究会で報告をさせていただきます。
林委員	ただアンケートは知らなかったっていうことを防ぐためには、アンケートを出しとけば、皆一応配ってあるんで、こんなこと知らないねっていうことは言わないと思うんですよね。
事務局	アンケート以外にも周知のチラシ、市広報等で周知を図ってまいります。
宮崎委員	皆に周知してもらおう。いきなりできましたでは、誰も参加しない。だから、前もって皆に知ってもらうことがやっぱり。違うかなと思うんです。

増田委員	保護者から、もしかたらニーズもあるかもしれない。
宮崎委員	そうですね。
増田委員	なので、こういうことを今後やっていきたいと思うので利用しますかとか。ニーズ、もしやるんならどういったニーズを要望されますかっていうところが欲しいですね。
宮崎委員	大雑把にね。
増田委員	そう、大雑把に。こんなようなことがあればいいなっていうと、多分その何をやるっていうのも立案、企画もしやすいですし、また保護者からのニーズでこういうのがありますっていうと参画している意識じゃないですけど、今回七宝地区では初めて。
事務局	そうです。
増田委員	やるんで、そこに参加してこういったことをやっていくっていう意識を高めるのであれば、そういったアンケートの取り方っていうのはいいのかな、できるのかなと。
大西委員	P T Aのそういう保護者にするのであればですね、木全先生と私、運営協議会、P T Aの今の、今度は1月に秋竹があって、2月に宝小、先生のところもありますし、3月には伊福小が運営協議会あるもんですから、その集まりの時にやはりアピールして、こういうことやるよというところもですね、校長先生たちに言ってもらいと、アピールしないとですね、やはりそのP T Aもある程度動いていただかないと。
林委員	そういう機会があればね。言ってもらった方がいいってことですよね。
大西委員	校長会でお話してもらえれば。
事務局	子育て支援課も同席できるなら色々調整させていただいてお話をさせていただけたらと思います。

大西委員	やっぱり事務局である程度考えていただいて。校長会でまとまるような話を。
林委員	実施する学校が知らないのではいけない。
大西委員	確認ですが、一斉下校だけを実施していくことでよいのか。
事務局	一斉下校では、時間的な制約ができる、物づくりなどのプログラムを考えていき、一斉下校ではない日については、校庭や体育館を活用したサッカーやドッチボールなどを実施していくことは可能でありますので、現状では一斉下校のみと考えておりません。スタッフ、実施場所、教室等の問題を解決していきながら決めていきたいと考えております。
井村委員長	色んな意見が出ました。またこれをですね、事務局の方もまとめていただきたいと思います。
事務局	今日いただきましたご意見をまとめさせていただきまして、3回目の研究会で報告させていただきます。
井村委員長	閉会